

〈卷末資料〉

I 概 要

長寿社会における生涯学習の在り方について ～人生100年 いくつになっても 学ぶ幸せ 「幸齢社会」～(概要)

現状と課題

- **人生100年時代の到来**
「高齢社会」という言葉の持つ、マイナスのイメージから脱却し、健康で、生きがいをもって高齢期を迎えるためには、人生100年時代を想定した人生設計を行うことが必要
- **高齢者の実態とイメージの乖離**
社会から支えられる存在ではなく、地域が抱える課題を解決する「地域社会の主役」として活躍できる環境を整備することが必要

生涯学習

新たな価値観や高齢者観の創造

理念

生涯学習とは、学習者が自発的に行う自由で広範な学習。趣味・教養のみならず、社会との関わりを通して個人の生き方や考え方に変化をもたらすあらゆる活動を含む。

意義・役割

- **生きがいの創出**
学習活動や地域活動を通じた生きがいの創出により、豊かな第二、第三の人生の実現
- **地域が抱える課題の解決**
自立や協働の学びを通して地域が抱える課題解決の担い手として活躍することにより地域の活性化に寄与
- **新たな縁・絆の構築**
学習活動や地域活動を通じて社会とのつながりを持ち、地域での社会的孤立を防止
- **健康維持・介護予防**
体を動かすことで、健康維持・介護予防を行い、社会保障費の抑制に寄与

長寿社会における生涯学習政策の基本的方向性と具体的方策

今後の方向性

- ① **学習内容及び方法の工夫・充実**
・学習者の参画による多様な学習機会の提供
- ② **世代別の特性への配慮**
・各世代や性別に応じたきめ細かな生涯学習
- ③ **学習が困難な者への支援**
・アウトリーチ型による届ける生涯学習
- ④ **関係機関相互の連携の促進**
・大学等との連携の促進
・教育委員会と首長部局との連携の促進
・地縁組織とNPO等との連携の促進
- ⑤ **学習成果の活用の促進**
・地域活動や就労など活躍する場の提供
- ⑥ **コーディネート機能の整備**
・専門人材が連携協働できる仕組みの構築
- ⑦ **世代間交流の促進**
・知識・経験の伝承、高齢者の居場所づくり

具体的な方策

- ① 高度化・多様化する学習ニーズに対応するため、学習者の参画による協働型学習プログラムの開発及び提供
- ② 学習活動や地域活動に係る情報の収集・データベース化、ワンストップサービスの整備
- ③ 関係機関の連携の下、コーディネーター人材の養成・研修の充実
- ④ 人材バンクや学習ボランティア登録制度の充実、学校支援や子育て支援など高齢者の活躍の場の充実

関係機関等の役割

- ① 社会教育施設→地域における学習拠点・活動拠点
- ② 学校→地域住民の学習活動の支援、活躍場所の提供
- ③ 大学→専門性の高い学習機会の提供、リーダー養成
- ④ 民間組織→活動機会の提供、意欲と活動のマッチング
- ⑤ 雇用主→ワーク・ライフ・バランスの推進
- ⑥ 市町村→関係機関の連携促進、多様な機会の提供
- ⑦ 都道府県→市町村の先導的な施策の支援、条件整備
- ⑧ 国→基本的な方針等の策定、地域間格差の是正 等

Ⅱ 事例集

- ① 学習成果を地域の活性化につなげている事例
- ② 高齢者が中心となって特色ある地域づくりを実践している事例
- ③ 世代間交流の事例
- ④ 高齢者の社会貢献活動の事例
- ⑤ 高齢者の就労の事例

■ 学習成果を地域の活性化につなげている事例 ～チャレンジコミュニティ大学(東京都港区)～

高齢者や高齢を迎える方が、学習を通じて個々の能力を再開発し、自らが生きがいのある豊かな人生を創造するとともに、今まで培ってきた知識・経験を地域に活かし、地域の活性化や地域コミュニティの育成に積極的に活躍するリーダーを養成することを目指す。

■ チャレンジコミュニティ大学の概要

「共に手を組みシニアの手で港区をもっと元気に住みよい町にしよう」という理念のもと、60歳以上の人を対象に、今まで培ってきた知識・経験・能力等を地域に生かし、地域コミュニティ活性化の要となる地域活動のリーダーを育成することを目的としている。受講期間は、1年間。大学の運営は、港区と明治学院大学が連携して行い、明治学院大学の校舎を使用して開設。図書館や食堂施設をはじめ、大学内の多くの施設を利用することも可能。学習内容は、区政や地域活動に役立つ基礎的な講義を中心に、福祉・環境・芸術等、多方面にわたる講義を実施。



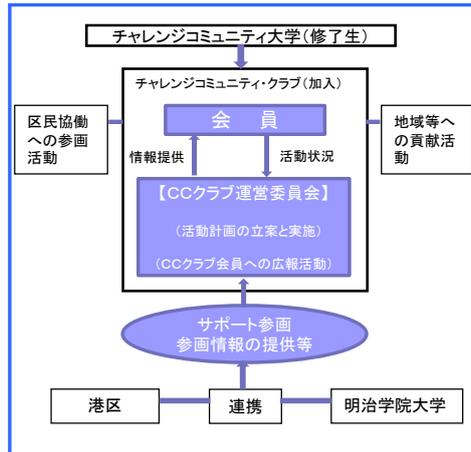
講義の様子



地域活動の様子

■ 修了後の活動

1年間のカリキュラム修了後は、チャレンジコミュニティ大学の修了生を会員とする「チャレンジコミュニティクラブ」(以下「CCクラブ」という)に登録することが義務づけられている。CCクラブは、チャレンジコミュニティ大学修了生の情報交換、資質の向上、地域活動の推進等を目的とした組織で、会員が自主的に運営。また、区からの情報も、CCクラブを通して修了生に提供。そのほか、港区の各委員会等への参加(区民参加)、地域タウンフォーラムなど、地域活動へも参画。



■ 学習成果を地域の活性化につなげている事例 ～なかの生涯学習大学(東京都中野区)～

- ◆ 自らの豊かな経験を活かして、共に学び合いながら、地域のために活動する意欲を培う。
- ◆ 地域で活躍できるよう、必要な知識・技術を高め、地域社会への主体的参加の促進を図る。
- ◆ 自己啓発をとらして、生きがいをもち、地域の中で新しいライフスタイルを創造する。

■ なかの生涯学習大学の概要

《主催》中野区教育委員会

55歳から79歳までの区民を対象とした社会教育事業で、受講期間が3年間の高齢者大学。豊かな経験を生かして、仲間づくりや地域・社会活動をスタートできるよう、現代社会の課題や地域の現状などを学習。学びを通じて人と人がつながり、活動へつながり、さらに地域社会づくりにつながっていくことをめざす。

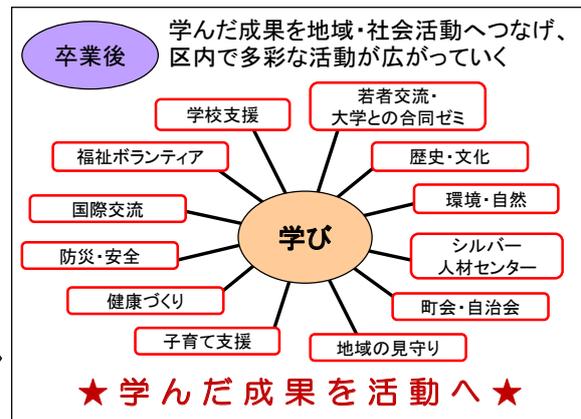
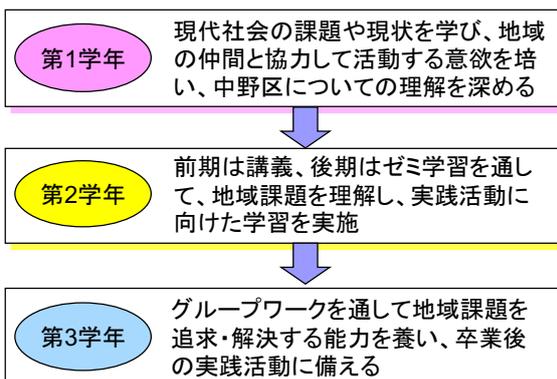
《23年度在学者数(23年5月現在)》第1学年=144名、第2学年=139名、第3学年=148名



早稲田大学との合同ゼミ

他部局・機関・大学などと連携しながら多様な学習プログラムを展開

■ なかの生涯学習大学 各学年のねらい



■ 学習成果を地域の活性化につなげている事例 ～くるるセミナー(岐阜県)～

名古屋大学と十六銀行の産学協同プロジェクトから生まれたアクティブシニアのためのセミナー。「聞く(セミナーを受講)」・「見る(見学)」・「する(学んだことを実践)」の語尾をとって「くるる」と呼ぶ。

■ 「くるるセミナー」の概要

元気なシニア層、特に「男性シニア」に生涯学習プログラム等を提供し、そこで新しい生き方を提示することで、彼らのこれまでの生きてきた道を肯定し、お互いの尊厳を認め合いながら、彼らの中にある社会への貢献意思に具体的なイメージを与えることを目的としている。元々は名古屋大学と十六銀行の産学協同プロジェクトとしてスタートしたが、現在は、岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクトとして運営。

■ 「くるる」の発展段階

第一段階:対象であるシニア層を家から引き出して、学びの場に誘う基本セミナーの開設(3ヶ月で1クール。1クール、6～8セミナー開設。1セミナー4、5コマで構成。受講料は無料。1クール当たりの参加者数は約200人。

第二段階:基本セミナーでの学習活動を通して、有志による趣味や自主活動等の自発的学習グループ・サークルを形成。現在15サークル。参加者数は332人。

第三段階:社会的な様々な活動を実施(シニアの社会参画・ボランティア・まちづくり・地域貢献)



くるる情報大学(模擬裁判により裁判員制度を理解)



「くるる合唱団」によるデイケアセンターの訪問活動

■ 高齢者が中心となって特色ある地域づくりを実践している事例 ～東京都江戸川区～

高齢者を円熟した人格と熟慮できる知恵、熟達した技量を持った人、永年の努力で今日の日本の繁栄を築いた社会の尊い財産であるとの考えに基づき、1983年から「老人」ではなく「熟年者」と呼び、施策を展開。

■ 具体的な取組

・**くすのきクラブ(1958年～)**:60歳以上の熟年者がお互いに、地域社会の中で、交流を図るために自主的に結成された組織。活動の4本柱として、①ボランティア、②教養向上、③娯楽、④健康増進活動を実施。現在207クラブで会員数19,202人。

・**熟年人材センター(1975年)**:日本初の高齢者事業団で、会員数3,882人、就業延べ人数27,746人、契約高11億9,600万円(08年度)。公園清掃、自転車整理、植木剪定など。平成24年度から日常生活支援サービス(シルバーお助け隊)を開始。

・**くすのきカルチャーセンター(1977年～)**:年間を通じた常設の教室が32科目あり、自主教室を含めると、約1万人が学んでいる。講師67名。科目は書道、ペン習字、水墨画、民謡、コーラス、英会話など。

・**リズム運動(1980年～)**:熟年者の健康保持、仲間づくりのために、社交ダンスを独自にアレンジした軽運動。江戸川区のみで実施。男女が手を取り合い、毎週の練習の他、様々な発表の場を用意。

・**すくすくすくーる(2003年～)**:全73の小学校で実施。地域・学校・保護者の連携により、多くの大人との交流や様々な体験を通して、子どもたちの豊かな人間性を育み、地域の力で子育てをしていく場。熟年者の生きがいと健康維持にも役立つ。

・**総合人生大学(2004年～)**

「共育」、「協働」の理念のもと、これまでの人生経験や知識を活用して、社会貢献を目指す高齢者などを応援する生涯学習機関。学習成果をボランティア活動として実践することが特徴。

<在校生数>174名(平均年齢:62.5歳) <卒業生数>462名 <輩出ボランティア団体数>42団体

江戸川区の6つの基本目標

地域の中で人々が互いに支え、教え、学び、育て合う「共育」のもとに、区民と区が手をたずさえて「協働」しながら安心と活力ある都市の実現を図る。

- (1) 未来を担う人づくり
- (2) 学びと協働による区民文化づくり
- (3) いきいきとした生活のための健康・福祉の社会づくり
- (4) 区民参加による環境づくり
- (5) 活力を創造する産業づくり
- (6) 区民の暮らしを力づくよく支えるまちづくり

■ 高齢者が中心となって特色ある地域づくりを実践している事例 ～ NPO 法人すぎなみ学びの楽園(東京都)～

2006年度に始まった「すぎなみ地域大学」の講座修了生を中心として活動しているNPO法人。世代を問わず地域内での交流を深め、楽しく豊かに過ごす杉並ライフ創りを目指すグループ。

■「NPO法人すぎなみ学びの楽園」の概要

地域で互いに助け合い、誰もが住みなれた土地で心豊かに、いつまでも暮らしていける社会を目指し、『住んでよし、学んでよし、心のふるさと、すぎなみをつくろう』というテーマで、杉並区民等が望み、求める講座を開き、学び合いの場をとおして、講師・受講者同士が交流を深め、継続して、楽しく学ぶことができる場を提供。

■ 事業概要

○ 運営管理業務(協働事業)

2009年より、「角川庭園・すぎなみ詩歌館」及び杉並区の高齢者施設「ゆうゆう館」の運営管理業務を委託。

○ 自然文化探索事業

東京近郊の自然と文化財を訪ね、その地域の自然、歴史や人々の生活を知る「自然文化探索会」を年4回開催。ウォーキングにより健康増進。

○ 天沼弁天池公園事業

天沼弁天池公園の清掃、管理などの「公園育て」のボランティア活動を実施。

○ まちづくり事業

よりよい街づくりのため、毎年行われる「まちづくり博覧会」では杉並区と協働し地域のまちづくり団体の活動の発表、交流の拡大を目指す。また、定期的な交流、発表の場として「まちづくりサロン」を実施。



杉並区立 角川庭園・幻戯山房
～すぎなみ詩歌館～



天沼弁天池公園事業

■ 高齢者が中心となって特色ある地域づくりを実践している事例 ～ 鹿児島県鹿屋市～

行政に頼らないまちづくりの実践。自治会が様々な活動で自主財源を確保、独自の福祉や青少年育成に取り組んでいる。住民の参加意識も高く、地域再生への挑戦として注目されている。

■ やねだんの概要

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷(通称「やねだん」)にある、人口300人、65歳以上が4割という「過疎高齢化」の集落。「行政に頼らない地域再生」を実践。集落総参加で労力や経験を提供しあい、土着菌を使った土作りやオリジナル焼酎づくりなど、独自の商品開発で自主財源を増やしたほか、住民の工夫で福祉や教育も自ら充実。

■ 具体的な取組

・自主財源の確保

「サツマイモを育てて、東京ドームにイチローを見に行こう」という高校生向けのイベントをきっかけに、住民を巻き込んだ本格的なサツマイモ作りを実施。サツマイモ作りの収益金は、初年度が27万円、3年目で63万円、5年目で90万円。化学肥料をやめ、土着菌に黒糖や米ぬかなどを混ぜた有機栽培を実施。

・やねだんオリジナル商品づくり

サツマイモを原材料とした『やねだん焼酎』を年間1000本から作りはじめ、10年目で収益が500万円に。収益については、緊急警報装置や、シルバーカー、寺小屋、『住民全110世帯に1万円のボーナス支給』で還元。

・迎賓館事業

空き家を整備し、迎賓館として、移住希望のアーティストを全国公募。「アーティスト村」へ転換させ、子供達に夢を与え、お年寄りに生きがいを与え、空き家の襖にはアートが描かれ、閉店したスーパーがギャラリーに変わり、笑顔の写真や子供達の作品が並ぶ。6年前から7人の芸術家が居住している。



焼酎



迎賓館第1号館

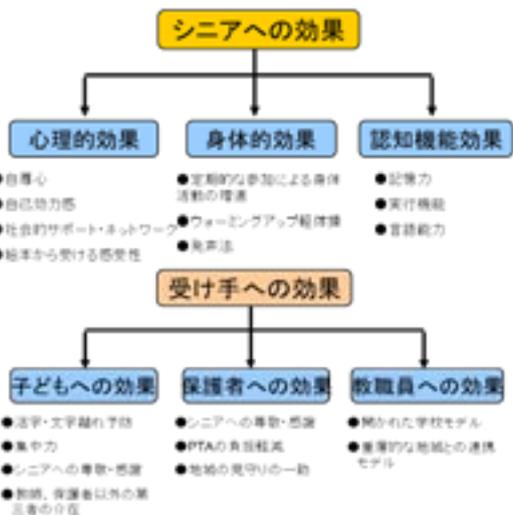
■ 世代間交流の事例 ～シニアによる絵本の読み聞かせボランティア「りぶりんと」～

シニアの生涯学習と社会参加による健康増進、シニアボランティアと子どもたちの世代間交流を通じた相互理解と支えあいのネットワークづくりを目的とした活動。

■ りぶりんと活動

60歳以上のシニアが、ボランティアとして幼稚園、保育園、小・中学校などで子どもたちに絵本の読み聞かせを行っている。東京都中央区(りぶりんと・中央区)、神奈川県川崎市多摩区(りぶりんと・かわさき)、滋賀県長浜市(りぶりんと・長浜)、東京都杉並区(りぶりんと・杉並)にて活動している他、大田区、豊島区、横浜市青葉区においてもシニアの絵本読み聞かせ活動が、学術機関(東京都健康長寿医療センター研究所)との連携により展開されている。

- 絵本の読み聞かせ:小グループに分かれて、学校や幼稚園、保育園などを訪問し絵本の読み聞かせを行っています(月1回～週数回)。
- 絵本の選書:子どもの年齢、季節、時事、授業との関連、施設の要望などを考慮しながら、次世代の子どもたちに伝えたい自身の願いを込めて選書を行います。
- 読み聞かせの練習:後ろの席の子どもにも届く声で、絵本に描かれたメッセージをいかに表現するかなど、繰り返し練習をして本番に臨みます。読み聞かせ後には、反省会や勉強会を行い、技術の維持・向上に努めています。
- 主な活動施設:保育園、幼稚園、小学校、中学校、学童クラブ、児童館



■ 世代間交流の事例 ～NPO法人かながわ子ども教室(神奈川県)～

シニア世代が知識や経験を生かして、各地区・学校に出向き、「理科好きの子どもを育てる」「子どもの健全な人格形成に寄与する」ことを目的として、小学生を対象に「たのしい科学教室」と「たのしい暮らしの教室」を開催。

■ 「NPO法人かながわ子ども教室」の概要

「子どもの健全な育成」と「高齢者の自立と生きがいづくり」を目的に活動している神奈川県在住の企業退職者の集まり。前身は「子どもの科学・社会教室」で、平成16年に「ダイヤかながわ交流会」の分科会として発足。開催場所は小中学校、コミュニティハウス、地区センター、学童保育、自治会など多数。平成21年4月からは「NPO法人かながわ子ども教室」として独立。全国展開事業として、各地の老人大学や生きがい関連のイベントでデモンストレーションを行い、全国への普及啓発にも力を入れている。



楽しい科学教室(宇宙教室)

■ 事業概要

○たのしい科学教室

世の中に存在するいろいろな現象や自然の働きなどについて、子どもが参加する実験や、写真や図をふんだんに用いて子ども達の興味・芽を育みながら、わかりやすく解説。海洋、光学、電気、宇宙、環境、液晶、エネルギー、地球、化学、糸電話、ミクロの世界の11教室を開設。

○たのしい暮らしの教室

暮らしに必要な食物や水はどのようにして届くのか。年中行事はなぜやるのか。世界の子ども達はどこでどんな暮らしをしているのかなど、暮らしの仕組みや世界の暮らしを通じて子どもに心の豊かな生活とは何かを考えさせるとともに、思いやりの心、感謝の心、自立心を養うことを目指す。世界、食物、お金、日本の行事、水の5教室を開設。

教室開催実績

	教室開催数	参加者数
平成17年度	23回	531人
平成18年度	75回	1,835人
平成19年度	84回	2,207人
平成20年度	112回	3,508人
平成21年度	132回	3,459人

■ 世代間交流の事例

～高齢者が授業やクラブ活動に参画するコミュニティ・スクールの実践(東京都三鷹市)～

三鷹市の全小・中学校22校ではコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校として「地域とともにある教育活動」を実践。地域が子どもたちの学びを支援するコミュニティ・スクールでは高齢者を含む市民が、小・中学校の教育に参画し、世代間の交流活動を実施。

■ コミュニティ・スクールや学校支援活動としての地域在住の高齢者による児童・生徒への指導

学校支援を行う「コミュニティ・スクール委員会 支援部会」や学校支援を行うNPO法人が組織として継続的にコーディネートしている地域人財の一員として、地域在住の市民が授業支援や子どもたちの支援を日常的に実施。

その一つとして、高齢者のもつ豊かな経験に基づくスキルや能力等を生かして授業で指導する「昔あそび」や「日本の伝統文化講座」、クラブ活動の指導を通して、世代間の交流を行い、子どもたちと地域の高齢者の中で顔の見える関係を構築し、地域全体で子どもたちを育てていく地域実践を、高齢者の社会貢献活動の一つとして実施。



三鷹中央学園
「むかしのあそびをしよう」(けん玉)

■ 具体的な取り組み

<p>コミュニティ・スクールの授業支援 地域人財の学習支援による世代間交流</p> <p>コミュニティ・スクール委員会によるコーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1生活科「むかしのあそびをしよう」 ＜三鷹中央学園＞ 地域の高齢者が、児童に指導し交流 授業後の給食会食交流 けん玉 はねつき お手玉 メンコ等 合計6講座 ・小6・中1合同授業「日本の伝統文化を学ぼう」 ＜にしみたか学園＞ 地域の高齢者を含む地域人財を講師に 小・中一貫教育の授業として実施 三味線、琴、茶道、着付け 等 合計18講座 	<p>NPO法人「夢育支援ネットワーク」による 放課後・土日の「きらめきクラブ」の指導</p> <p>「NPO法人 夢育支援ネットワーク」による コーディネート＜第四小学校の支援組織＞ 授業や学校行事の支援のほか、子どもたちの放課後等の多様な活動への支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きらめきクラブ」 放課後や土日の子どもたちのクラブ指導支援。 <p>竹工作・囲碁・ハンゲル・こども理科教室等 現在21のクラブを運営</p> <p>子どもの活動のほか「大人のためのきらめきクラブ」も発足し、大人の活動にも発展</p>
---	---



きらめきクラブ
竹工作クラブ「たけとんぼ作り」

■ 高齢者の社会貢献活動の事例 ～NALC(ニッポン・アクティブライフ・クラブ)～

“自立・奉仕・助け合い”をモットーに、社会に役立ち、“健康”と“生きがい”を得、“生涯現役”を合い言葉に活動。

■ NALCの概要

「自分のできることを」「自分のできる時間に」「自分のできる方法で」のボランティアを地域ですすめるNPO法人。特徴としてボランティアの時間を貯め、自分が困った時には引き出して助けてもらい又遠く離れて暮らす親の介護にも使える時間預託システムによる『助け合い』を実施している。全国133箇所に活動拠点、会員30,000人。

■ 事業概要

- ①高齢者・障害者の生活支援、介護・介助サービス
- ②子育て支援
- ③環境美化のボランティア活動

■ 時間預託制度の概要

会員に対してサービス提供した時間はどんなサービスでも1時間1点として拠点事務所が「時間預託台帳」に記録、それを「時間預託手帳」に転記して会員に渡す。自分・配偶者の親が困った時、弱った時に何時でも引き出し会員に助けて貰える。



介護・介助支援



子育て支援



■ 高齢者の就労の事例 ～株式会社高齢社～（東京都）

「人は財産。人は宝」という考え方に立ち、働く意欲のある高齢者に「働く場」と「生きがい」を提供。

■ 株式会社高齢社の概要

2000年1月設立。定年を迎えたものの気力・体力・知力を備えた高齢者にこれまでの豊富な知識や経験を活かしてもらいながら働く場と生きがいを提供。60歳以上を対象とした人材派遣事業、有料職業紹介事業、各種請負業務による事業を展開。売上高427百万円、登録社員数380名（2010年度）

■ 経営理念

- 1) 高齢者に「働く場」と「生きがい」を提供
- 2) 「社員≧顧客≧株主」の人本主義（社員第一主義）の徹底
- 3) 派遣先には、①低コスト、②高品質、③柔軟な対応力 を提供

■ 高齢社を活用するメリット

派遣先のメリット	高齢者のメリット
ニーズにあった専門技能や資格をもった人材を派遣。きめ細かいサービスを提供。年金併用のため、低コストで質の高い労働力の活用が可能。	それぞれの希望や能力に合わせ、無理なく、いきいき働ける場を提供。派遣中はいつでも必要なサポートが受けられるため、年金を受けながら安心して就労が可能。



ガス工事現場の派遣社員